1.　評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471300582
法人名	社会福祉法人　宮城福祉会
事業所名	うぐいすの里こもれびの家
所在地 （電話番号）	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46 （電　話）0228－55－3889

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20年　1月　24日

【情報提供票より】（平成20年　1月　7日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　4　月　1　日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	15　人	常勤　15　人，非常勤　0　人，常勤換算 15．0	

（2）建物概要

建物形態	併設／〇単独	〇新築／改築
建物構造	木造　造り	
	1 階建て0.　1 階　～　階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20,400　円		その他の経費（月額）	15,000　円
敷　金	有（　円）		〇無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 〇無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1，000　円			

（4）利用者の概要（　1　月　7　日現在）

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性　16 名
要介護1		3　名	要介護2	4　名	
要介護3		7　名	要介護4	3　名	
要介護5		1　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	84 歳	最低	76 歳	最高　92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	栗原市立栗原中央病院、（歯科）栗原市立鶯沢診療所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、社会福祉法人宮城福祉会が平成17年4月に、栗駒山を背景とした広い敷地内に、特養ホームと併設して開設された。2つのユニットで構成されており、そのうちの一つは4人の知的障害者と一つの屋根の下で生活を共にする共生型施設となっている。さらに昨年は同じ敷地内にケアハウスが新設され、この地域の福祉を担う核（宝）として住民の期待を集めている。周辺には鶯沢診療所をはじめ、保育所、幼稚園、小学校、市役所の総合支所などがあり、すべての職員が「恵まれた環境のなかで、住民と共に暮らしていけるホーム作り」に意欲と情熱を燃やしている。また、中学生の職場体験学習を受け入れ、他方入居者は春秋の交通安全運動に参加して学童を誘導したり、地域社会や学校行事に積極的に参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	①第三者委員の相談・苦情受付明示、②情報共有ノート作成による入居者生活歴、経験等の把握とそれを活かしたケアの実施、③内服薬情報提供表をいつでも誰でも閲覧可能とした事等、前回外部評価での指摘事項について、ゆっくりではあるが着実に改善してきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、各棟責任者を中心に職員の気付き等の意見を取り入れて作成している。今後、今回の外部評価の結果を補完しながら、ケアのレベルアップに向け、改善計画の作成、改善項目の決定、各改善項目の具体化実施に全体で取り組むとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	入居者(2名)、家族代表、民生委員、区長等地域代表(2名)、小、中学校代表、市職員、地域包括支援センター等計13名をメンバーに平成19年7月に1回目を開催し、その後4か月に1回の開催を目指していたが、民生委員の改選時期と重なったために、2回目の開催が遅れている。今後は、2か月毎に定期開催したいとしている。
重点項目③	
	重要事項説明書に苦情等申立先として事業所窓口、第三者委員名、行政機関名を電話番号とともに明記している。家族会は設けてないが、運営推進会議メンバーに家族代表が入っている。家族面会時に話し易い雰囲気作りを行い、要望・苦情等聞き取れるよう努めている。家族アンケートでは、家族意見をよく聞いてくれるなど家族のホームに対する満足度が高いことがうかがわれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	入居者の春、秋の交通安全強化期間中の鶯沢小学校での登校時呼掛け実施、夏祭り等の地域行事参加等、積極的に地域へ出るようにしていると共に、中庭を保育所児童の散歩コースに開放したり、中学校地域交流事業でのホーム実習受入れ、老人会員やボランティア受入れ等地域との交流が活発に行われている。

2. 評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度から事業の目的と運営方針に「住み慣れた地域で、地域の人々と共に生きる」の語句を挿入しているが、「地域密着型サービス」ということを再度職員間で話し合いながら、理念の見直しをしていく必要があるとしている。	○	ホームは、「うぐいすの里」の設計段階から地域社会との共生を意識し、「地域生活の継続」と「地域との関係性の強化」を実践して来ている。その見地から「理念の再構築」にかかる方向性には共感できるので、是非ともその実現をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の尊厳の保持や入居者の自立の支援を基本に、棟ごとの職員間で話し合って、棟ごとに「介護の目標」を定め、掲示している。日々のサービスの提供に当たっては、この「介護の目標」を生かしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の春、秋の交通安全強化期間中の鶯沢小学校での登校時呼掛け実施、夏祭り等の地域行事参加等、積極的に地域へ出るようにしていると共に、中庭を保育所の散歩コースに開放したり、中学校地域交流事業でのホーム実習受入れ、老人会員やボランティア受入れ等地域との交流が活発に行われている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者委員の苦情受付先明示、情報共有ﾉｰﾄ作成による入居者生活歴、経験等の把握、前回外部評価の指摘事項について、ゆっくりではあるが着実に改善してきている。今回自己評価は、各棟責任者を中心に職員の気付き等の意見を取り入れて作成しており、今後ケアのﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟに向け全体で取り組むとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者2名、家族代表、民生委員、区長等地域代表2名小・中学校、市職員、地域包括支援ｾﾝﾀｰ等計13名をﾒﾝﾊﾞｰに、19年7月に1回目を開催し、4か月に1回開催を目指していたが、民生委員の改選時期と重なったため2回目開催が遅れている。出席者から「何かあったらいつでも声がけして下さい」との声を頂いている。	○	今後は2か月毎に定期開催したいとしているので早急に2回目を開催し、定期開催を定着化していただきたい。運営推進会議は、入居者のサービスの質の向上につながる重要な場である事を認識し、構成ﾒﾝﾊﾞｰの方への働きかけを一層強め、双方向での意見交換になるよう運営することを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護福祉課とは、制度の運用・解釈、入居者の要望や相談に関すること等で問合せ相談を図り、情報交換を行っている。また、近くの総合支所や地域包括支援センターとは、手続き等で日常的に交流があり、ホーム側の要望や理解を得るよう努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した時には必ず声がけし、入居者の状況を伝えるとともに家族のことも話し合えるよう努めている。月1回全ての家族に、暮らしぶり、健康状態、金銭管理状況等を報告するとともに、状態変化時は早めの連絡を心掛けている。また、ホーム便りを2か月に1回発行し家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等申立先として事業所窓口、第三者委員名、行政機関名を電話番号とともに明記している。家族会は設けてないが、運営推進会議ﾒﾝﾊﾞｰに家族代表が入っている。家族面会時に話し易い雰囲気作りを行い、要望・苦情等聞き取れるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は管理者交代、職員の退職・転勤で3名の交代があり、各棟責任者がリードしての事前研修と新人と各棟責任者やベテラン職員との2名体制や家族への事前連絡を取るなどして、入居者への影響を少なくするようにしていた。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を重視し、正・臨時職員を問わず外部研修会等に参加する機会を設け、費用面、日程面でも配慮をしている。今年度も実践者研修を4名が受講済みや研修中である。また、受験資格のある職員には積極的に受験を促している。職員が新たに資格を取得した場合には、賃金上の改善がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、ユニットケア、人権擁護等の研修会や交換研修会に参加し、サービスの質の向上につながる情報交換を行っている。また、同一施設内の他施設と合同で同一法人のホーム見学会を兼ねた親睦会に職員が参加し、お互いの情報交換と親睦を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前に家族も含め、お茶のみに来訪して頂いたり、空室がある場合には泊り体験利用をして貰うなどの工夫を重ね、雰囲気への慣れや職員や他入居者との馴染みの関係作りを図っている。その上で本格的な入居に移っていけるように、本人や家族などと十分に話し合って、入居の開始時期を調整している。		
,					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として盆・正月での慣わしを教えて貰ったり、ずんだはっと作り、干し柿や漬物作り、しめ縄作りを一緒に行ったりして、入居者の技や経験を引き出し、支えあっていく関係を築いている。職員はそれらの行為に、感謝とねぎらいの言葉をかけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分が入居者の立場ならどうして欲しいのか、感じ取れるよう心掛け、一人ひとりの思いや意向把握に努め、気づきやケアの工夫、アイディアを情報共有ノートに記載し全員が活用している。今後も、意向把握に努め、入居者主体の生活を継続させたいとしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ホーム以外の関係者(医師、看護師、介護支援専門員など)の意見も取り入れ、すべての職員で話し合い、介護計画を作成している。各棟責任者が介護計画作成担当を兼務し、夜勤を含み入居者と生活し、職員と共にモニタリングを実施している。課題となる部分は出来るだけ本人の言葉で表し、本人意見を反映するよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで全入居者についての介護計画の定期見直しを実施しており、計画書に本人同意欄がないが説明し、家族の同意を得ている。見直し前に変化が見られた場合には、その都度家族と話し合い、現状に即した計画見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて通院、美容院送迎や買い物の支援を行っている。また、入院時の移動、洗濯支援も必要に応じ支援している。近在の高齢者がショートスティを利用したいと望めば、併設している特養ホームで対応できる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診を基本にしているが、本人、家族が希望するかかりつけ医があれば受診支援を行っている。法人の嘱託医である鶯沢診療所の医師が月1回定期的に往診を行っている。又、併設特養ホームの看護師に相談、協力を得る体制があり、必要時医療機関への連絡を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には医師、家族を含め話し合いの場を持つようにしているが、終末期のあり方については、診療所の医師体制も出来ておらず、方針や体制の検討、共有、文書化は今後の課題としている。	○	終末期のあり方についての方針検討・文書化、家族・医師との話し合いによる方針の共有と連携体制の構築、知識・技術の習得などを着実に進めていただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけを各棟目標である「いつも笑顔でゆったり」と呼びかけるよう努めており、入居者も笑顔で応えている。強い口調にならないよう職員同士がお互いに注意しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が日々異なる状態になることがある事を念頭に、せかしたりせず、その日その日の入居者の生活ペースで過ごせるように、気付きを大事にして支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を同じ食卓で摂り、メニューの話題を話しかけ楽しさを引き出しながら、こぼしたものの始末をさりげなく支援していた。食事時間も施設設定時間より本人のペースを優先させており、楽しんで食事していた。誕生日には本人希望による献立としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を可能としている。入居者の各自の生活ペースの中から自ずと入浴順番が決まってくるようであり、気の会う同士、二人で入浴する入居者もいる。一人暮らしが長い等で入浴を嫌がる方もあるが、タイミングをみた言葉掛けやさりげない誘いかけで対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の会話や昔話などから楽しみごとや生活歴、経験を聞きだし、その人の持てる力を活かした場面作りを行っており、惣菜作り、片付け、掃除、玄関前での米作り、野菜栽培など楽しみ事、役割を作り出している。また、月に3回程度、芋煮会、外出などの行事を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	栗駒温泉、お花見会など近辺観光地への遠出、天気の良い日の近隣散歩、小学校の運動会の見物や保育所の遊戯の練習の参観、買い物や馴染みの美容院等への外出支援を行っている。歩行不安定な入居者には車椅子を使用し、一緒に出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関には鍵を掛けていない。但し、なでしこ棟は野良猫が玄関を開け入ってきてしまうため、施錠理由の張り紙をし、必要に応じて施錠している。玄関には転倒防止用センサーマットを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	鶯沢消防団と近隣防災協定を締結し、非常時の相互の応援を約束している。年間3回の避難訓練を行い、避難経路や消火器設置場所の確認をしている。その内、1回は夜間を想定した避難訓練である。非常用食糧、備品を準備している。地域の方々の協力については今後の課題としている。	○	運営推進会議の場を活用して働きかけを強め、地域の方々の協力を得られるよう期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については同じ敷地にある特養の管理栄養士がバランスを考え作成しており、一人ひとりにあった形態での食事を提供している。食事(主菜、副菜)摂取量、水分摂取量を個人毎チェック表で記録すると共に、バイタル、体重、排尿記録も個人毎に作成し、状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、廊下の壁には旅行会や行事写真、誕生会写真と共に、鶯沢中学校の地域交流行事やホーム訪問報告などの掲示物が貼られており、生活感、思い出を感じられるよう配慮している。TVの前には手作りの日めくりカレンダーをおいたり、季節の花を飾り、季節感を感じられるようにしている。廊下には畳を貼ったベンチが置かれ、会話や休息に使われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室トイレ、洗面台、物入れが設置されている。居室の障子を開けると共用の日当たりのよい縁側があり、自宅に居るような環境となっている。室内には写真、たんすなど馴染みのものが置かれ居心地よく過ごせるよう配慮している。また、必要により加湿器が使用でき見学時も運転していた。		